

## 特別研修

### 月例研究会 議事録 ( 10 月 )

2007 年度第 5 回

<b>報告題名</b> 農業における情報利用の在り方とそれに向けた条件に関する研究	
<b>報告者</b> 鈴木秀一	<b>日時</b> 10月25日(木)
<b>(所属分野)</b> 経営情報学分野	<b>場所</b> 第8講義室
<b>座長</b> 西橋	<b>議事録担当者</b> 阿部
<b>出席者</b> 両角、大鎌、木谷、長谷部、齋藤、石井、小山田、西橋、鈴木、阿部、飯塚、水澤、平口、高嶋、大森、鹿嶋、デッフィ、菅井	
<b>報告要旨</b> 近年、社会の急速な情報化に伴い商業、工業の面のみならず、農業の面でも情報技術の利用に注目が集まってきている。政府の各府省においても地理情報システム（GIS）を利用する環境の基盤を整備し、行政の効率化と質の高い行政サービスの提供の実現に向けて動いており、農林水産省においても、国土空間データ基盤に関する標準化、地図データの電子化・流通を促す観点からの制度の整備、地図、統計データの電子化とインターネット提供の推進、農地、森林 GIS の効率的な利用および相互利用の推進に取り組んでいる。 本報告では、特別栽培米の栽培に力を入れ、その履歴情報の管理に情報システムを利用することを決めた JA みやぎ登米にて聞き取り調査を行い、そこから得られた結果をもとに今後の情報システムの在り方を検討し、同時に今後の研究の方向性について示す。	

## 質疑・応答

西橋 : JA 登米の履歴情報システムは、全農から要請があつて導入したという話だが、実際に効果はあったのか。

鈴木 : データ処理の速さが比較的上がり、担当者の人も中田町のもの比べると使いやすくなったと言っていた。

西橋 : 鈴木君の研究のゴールはどこにあるのか。

鈴木 : このようなシステムをやっていく上で、こういったものをデータ管理したいというのがあれば、そこからシステムをどんどん拡張させていったり、あとは別個で作ったものをネットワークで繋いだりするなど、農業者の人たちのさまざまなニーズに対して、どのようにこのシステムを使っていくかということを考えていきたい。

長谷部 : まず1点目。この研究のどこに鈴木君の独自性があるのか。それから2点目。この研究の目的が分からない。GIS を使った場合のメリットはどこにあるのか。研究全体のイメージを教えて欲しい。

鈴木 : 研究のオリジナリティーについて、文献整理をしていくと、例えば GIS をこういう風に使ったら使えるといったような話はよくあるのだが、それを具体的にどういう形にしなければいけないのかというのはあまりない。私の研究では、地域社会の営農というところに焦点を当てて、地域の発展に関してどういう風に見えるのかを研究するところにオリジナリティーがある。

長谷部 : 今後 GIS はどういう風に見えるのか、もし具体的なものがあれば提示したらよい。実際に GIS を使ったことがあるのか。

鈴木 : 使ったことはないが、それを触っているところを見たことがある。

長谷部 : それを見て、何かすごいと感じたことはないのか。

鈴木 : すごいと感じる部分は多々あるが、まだ登米の場合は、地図情報システムとの連携がうまくいっていないので、その部分はこれから調べていきたいと思う。

長谷部 : GIS を使うメリットがよく分からない。

鈴木 : それに関してはこれからまとめていきたいと思う。

両角 : この間アメリカに行ったとき、3700ヘクタールを一人でやっている人がおり、そこで GIS を活用していた。それでトラクターで運転しながら圃場条件を見ていた。そういうところは経営の合理化にもものすごく役立っていると思う。今後は、一人でやる場合の GIS のメリットと、地域でやる場合のメリットを比較すると面白いと思う。参考までに。

**平口** : 今回の報告で、登米の事例はいいこと尽くしだと感じるが、今後鈴木君が具体的にこういうことに絞って研究を進めていきたいというのがあれば教えて欲しい。

**鈴木** : 中田の場合、必要かもしれないのでなんとなくシステムを導入しようということだったが、登米の場合は明確な目的があってシステムを導入した。したがって目的に対しての力の入れ方が大きく異なり、スライドにも示したように、今後その利用目的の設定についていろいろと検討していきたい。

**大鎌** : 農業の情報化について、どういう風な農業者のニーズがあって、どういうところで GIS が使われなければならないのか、そういった議論を踏まえないと、うまくいかないと思う。これでは評価の軸ができないと思う。

**鈴木** : 今は文献整理を行っており、その中に情報ニーズに関して書かれている文献があるので、今後それを読み、明確な軸をつくっていききたいと思う。今回はそこまでやる時間がなかったので、そこまで整理し切れなかった。今後の課題としたい。

**大鎌** : それとさっき長谷部先生も言っていたが、GIS を使う利点というか、メリットを詰めていく必要がある。

**鈴木** : GIS は地図を使っていろいろ色分けをし、生産調整を行ったり、また計画の策定が時間を短縮してスムーズに行えるので、そういった面ではメリットがある。しかしながら今後、その点についてはもっと詰めていく必要がある。

**木谷** : GIS (精密農業) を使って農業をちゃんとやろうという人だったら賛成するだろうが、昔ながらの農業をやっている人にとってこれは農業ではないという思いはないのか。昔ながらの農業をやっている人が、果たして GIS を使って効率的に農業をしたいという思いになれるのか。なればそれでいいのだが、そういう問題はないのか。  
農民はみんな賛成しているのか。

**鈴木** : 今回、木谷先生のいうこと (精密農業) は対象に含めていなかった。農家の賛成反対で言えば登米の場合は比較的協力的であるようだった。木谷先生の言う視点からも今後は地域の実情にあったオーダーメイド型のシステムが必要になってくると思う。最後に示した課題と条件のところに力をおいて研究を進めていきたいと思う。

**両角** : どういうところで GIS のメリットが発揮されるのか、今後相当詰めていく必要がある。